

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 鶴見

学 校 名 みどり小学校

学校長名 栗田 博司

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・みどり小学校では、第6学年 114名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の平均正答率は6.5ポイントであった。全国平均正答率6.6.8ポイントから1.8ポイント下回り、大阪府の平均正答率と同等の結果となった。正答率分布では低位層・中位層・高位層の3つの山がみられ、高位層のボリュームが減り低位層が増える結果となった。

算数科の平均正答率は5.7ポイントであった。全国・大阪府の平均正答率5.8ポイントから1ポイント下回る結果となった。正答率分布では、比較的全国平均と近似値ではあるが最上位層が少なく、高位層の山が高くなっている結果となった。

理科の平均正答率は5.3ポイントであった。全国平均正答率5.7.1ポイントから4.1ポイント下回り、大阪府の平均正答率から2ポイント下回る結果となった。正答率分布では、全国の分布図に比べ中央値が低い方へ少し移動している状況がみられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕学習指導要領の内容・領域・区分ごとにみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」が全国平均を上回っている。特に、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかという項目では、全国を大きく上回っている。しかし、「我が国の言語文化に関する項目」「読むこと」は大阪府平均を下回っていることから、自主学習ノートを活用し漢字を文中で正しく使うことや時間の経過による言葉の変化など調べ学習に力を入れていく。

〔算数〕学習指導要領の内容・領域・区分ごとにみると、全国平均とほぼ同等の平均正答率となっている。小数や分数の計算を正確に理解させるとともに、面積の求め方などを自分の言葉で表現できる活動を取り入れていく。

〔理科〕学習指導要領の内容・領域・区分ごとにみると、全国平均より全体的に若干低めである。特に「エネルギーを柱とする領域」が大きく下回っている。身の回りにある金属や電気を通すもの、磁石に引き付けられるものなど体験を通して学んだものを知識として定着していく必要がある。

質問調査より

○「自分には、良いところがありますか」の質問に対して肯定的な回答が5.7.0ポイントとなり全国の4.7.3ポイントを9.7ポイント上回り、自分の長所が分かり自尊感情の高さを知ることができる。「将来の夢や目標をもっていますか」という質問に対して肯定的な回答が7.0ポイントと全国の6.0.7ポイントと9.3ポイント上回り、将来に対して明るい未来を多くの児童が持っている。

○「自分と違う意見について考えるのが楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答が4.8.0ポイントとなり全国の3.2.6ポイントを1.5.4ポイント上回り、自分の意見と比較しながら考えを進めていっていることが分かる。

○「土日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか」という質問に対して1時間以内と回答する割合が7.0ポイントと全国の5.2.7ポイントから1.3.3ポイントも低く、学習時間の確保ができていない現状がうかがえる。また、家に本が10冊以下の家庭が2.2ポイントと全国に比べて6.9ポイントも多くなっている。

今後の取組(アクションプラン)

○家庭との連携を取り、学習習慣の確立、家庭学習の充実を図り、学習意欲を高めていく。
(自主学習ノートの活用、読書習慣の形成)

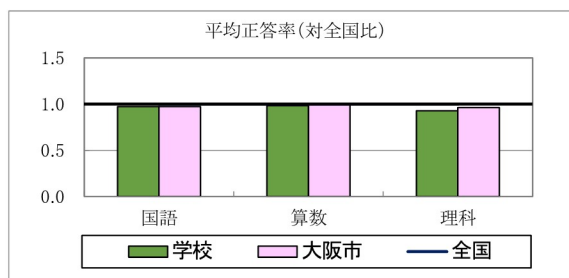
○授業中におけるPCのさらなる活用とともに、持ち帰りによるPCの活用も進めていく。

○家庭学習においてデジタルドリルの活用など個別最適化された学習を提供し、基礎学力の定着及び学力の伸長を図っていく。

【 全体の概要 】

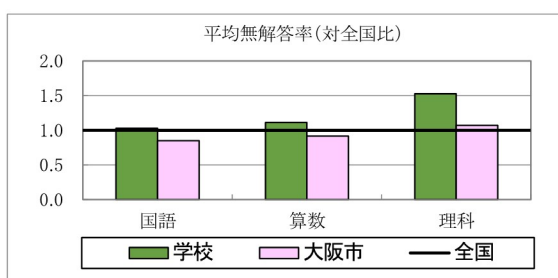
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	65	57	53
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	3.4	4.0	4.3
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



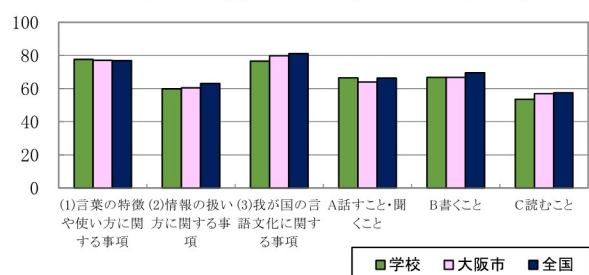
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	77.6	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	59.8	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	76.6	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	66.4	64.0	66.3
B 書くこと	3	66.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	53.5	56.9	57.5

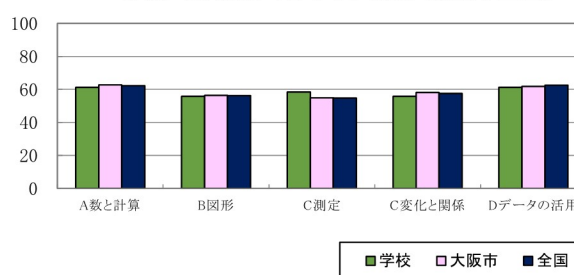
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	61.2	62.7	62.3
B 図形	4	55.8	56.4	56.2
C 測定	2	58.4	54.9	54.8
C 変化と関係	3	55.8	58.2	57.5
D データの活用	5	61.3	61.9	62.6

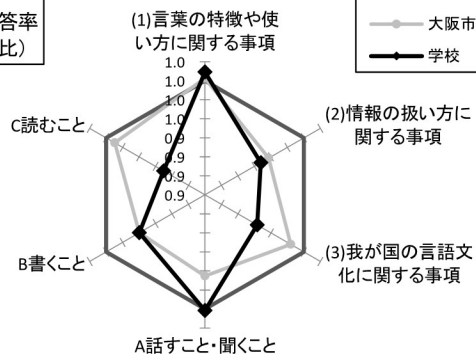
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



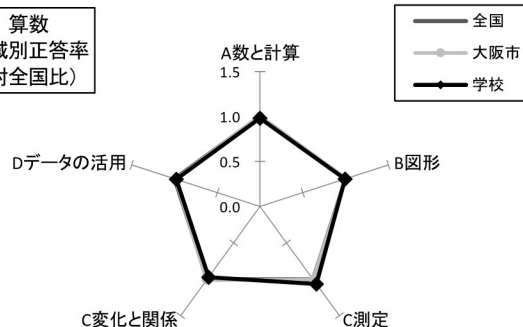
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

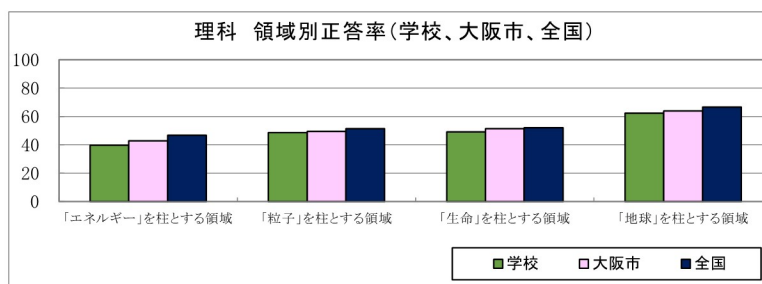


算数
領域別正答率
(対全国比)

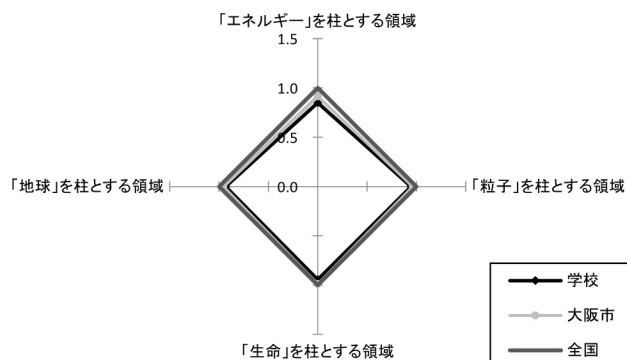


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	39.7	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	48.6	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	49.1	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	62.3	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

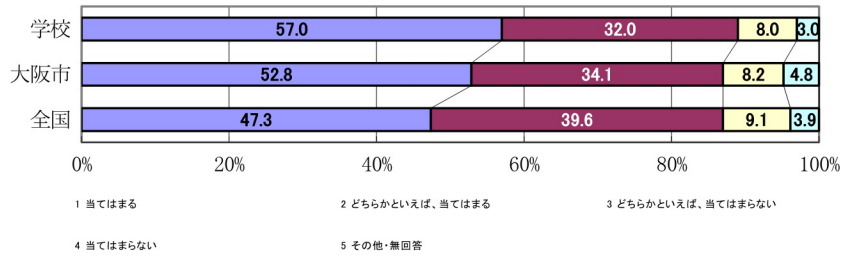
質問番号

質問事項

5

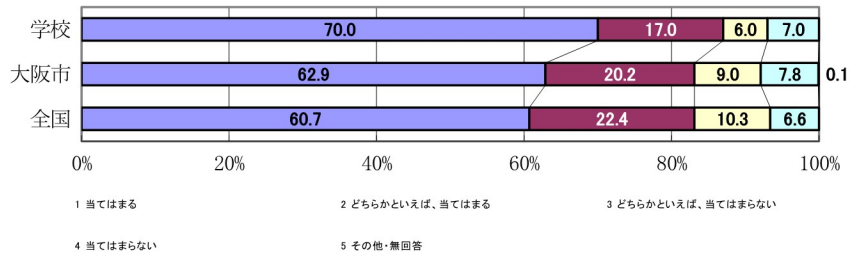
自分には、よいところがあると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



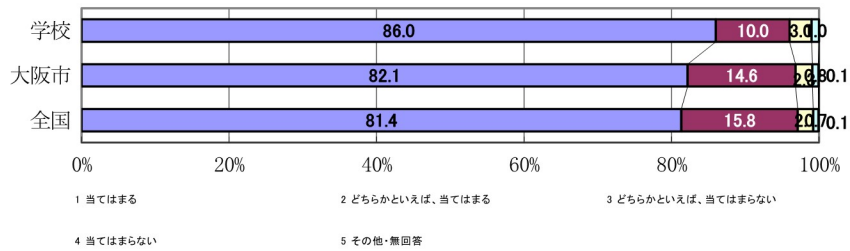
7

将来の夢や目標を持っていますか



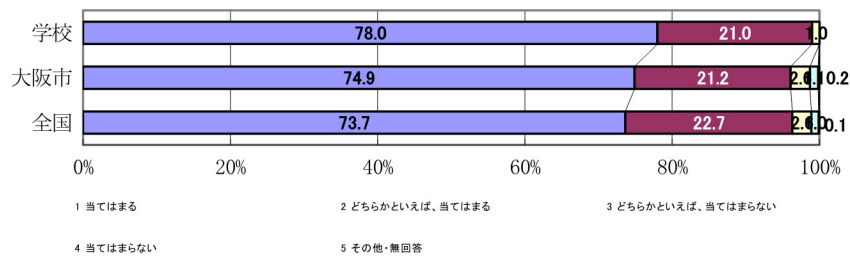
9

いじめは、どんな理由があってもいけなないことだと思いますか



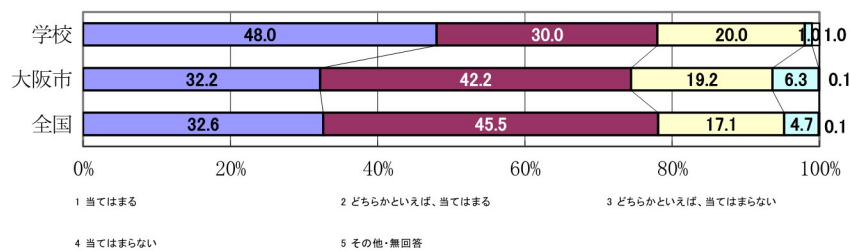
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



学校質問より

質問番号

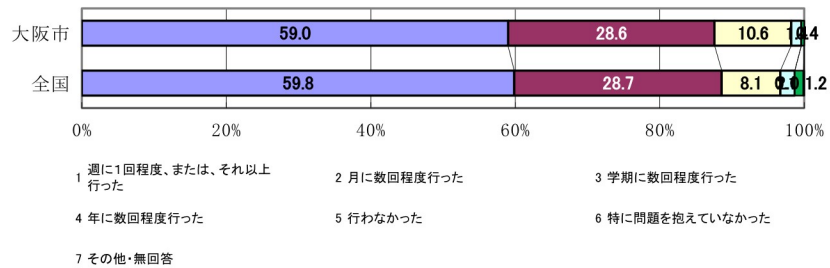
質問事項

12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

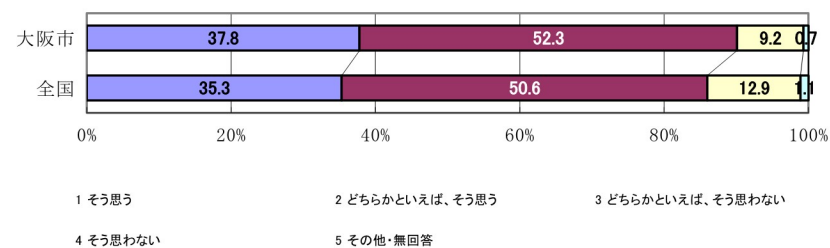
学校 「月に数回程度行った」を選択



8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

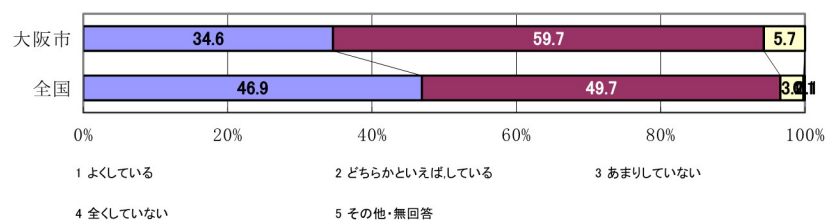
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



14

教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか

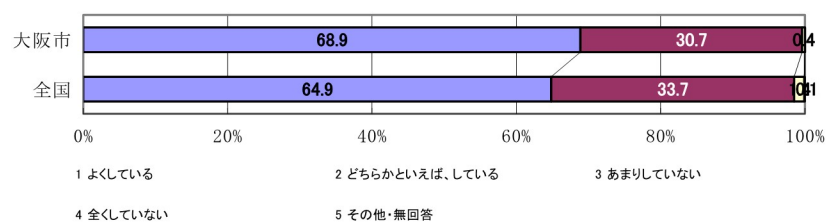
学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

